

ブロードエーカーシティーに関する 2 枚の思想家のパネルとその解説

Broadacre City の展示物の一部として作られたもの。

タリアセン、ヒルサイドスタジオ Dana Gallery にある。

ブロードエーカーシティーの学生に必要な読書

REQUIRED READING
FOR STUDENTS OF
BROADACRE CITY

LAOTZE
JESUS
SPINOZA
VOLTAIRE
WALT WHITMAN
HENRY GEORGE
WILLIAM BLAKE
LOUIS SULLIVAN

NOT FORGETTING

NIETZSCHE
THOREAU
EMERSON

ブロードエーカーシティーが記念する

BROADACRE CITY
COMMEMORATING

MOSES
SPARTACUS
HERACLITUS
GOETHE
MAZZINI
COUNT TOLSTOI
PRINCE PETER
KROPOTKIN
SILVIO GESSEL
HENRY THOUREAU
HENRY GEORGE
WILLIAM BLAKE
LOUIS SULLIVAN

NOT FORGETTING

THORSTEIN VEBLEN
EDWARD BELLAMY

解説

老子 LAOTZE 中国の春秋時代の思想家。ライトは 1920 年代に岡倉天心の「茶の本」に 建物の本質は 4 つの壁や屋根にあるのではなく、生活する内部の空間に存在する。とあるのを読んで消沈した実践しているのは自分であるとして気を取り直した。と回想している。

老子の思想は神秘主義から処世訓まで多岐にわたるが、その原理は万物の根本である道によって表される。道とは、全ての存在を規定する原理であると同時に、それら全てを生み出した母なる存在で

もある。道はあまりに広大で漠然としているので定義や解釈を超えているが、人為を廃し自然であることが道に通ずるとされる。このような態度を無為自然といい、老子はこれを処世から統治まで全てに適用すべきだと考えた。

キリスト JESUS

スピノザ SPINOZA(1632-77)・・・ オランダの哲学者 人間の本质は思惟にあり、人間にとって自己の思惟を完成することが真に自己を維持する道であると考えた。また、「神に酔える哲学者」と評された彼は、全てのものの原因となるようなもの(究極原因)を神と名づけ、「神すなわち自然」であるとする汎神論的一元論を唱えた。

ボルテール VOLTAIRE(1694-1778) 啓蒙主義を代表するフランスの多才な哲学者、作家。反権力の精力的な執筆活動や発言により 18 世紀的自由主義の一つの象徴とみなされた。

ウォルト・ウィットマン WALT WHITMAN(1819-1892) アメリカ合衆国の詩人、随筆家、ジャーナリスト、ヒューマニスト。超越主義から写実主義への過渡期を代表する人物の一人。アメリカ最初の「民主主義詩人」。

ライトの「When Democracy build」の巻頭にはホイットマンの詩篇「世界の歌」が引用されている。

ヘンリー・ジョージ HENRY GEORGE(1839-97) 1870 年代、サンフランシスコの新聞発行者だったヘンリー・ジョージは発展の中での貧困の原因が、地主が要求した使用料によると確信し、土地から得る「単一税」が公平かつ公正な社会を維持するために十分であると主張した。1879 年に書いた『進歩と貧困』は、全世界で 200 万部以上売れた。この本は、現在にいたるまで絶版になったことがない。彼は、1886 年にニューヨーク市長選に出馬し、当選まであと一歩のところまでいった。

このアイデアは 1890 年代の間にシカゴでも広く議論されていた。フランク・ロイド・ライトの師であるルイス・サリバンは、この時期に George 派の議論グループに属していることを彼の自伝を書いている。

開発による利益は、社会に還元されず、少数の土地保有者に帰属してしまう。だから、社会全体の富は増えるのに、貧困者が増える。この状態を変えるには、土地に対する税を強化し、利益を社会に還元すべきだ。その半面で、労働や資本に対する税は軽減すべし。ただ一つの税-土地への課税-が進歩の中で効果的に貧困をなくす。 <http://www.henrygeorge.org/>

シルビオ・ゲセル SILVIO GESSEL(1862-1930) 「自然的経済秩序」1914

財やサービスの多くが時間の経過とともに劣化するのに対し貨幣は価値が減らず、蓄えることができるため多額の所有者に利子を要求する特権を授ける。利子を生み出す非中立的な貨幣は、業績にそぐわない不公平な所得分配を生じさせ、それは貨幣資本および物的資本の集中をもたらしその結果経済の独占にいたるとともに景気の波をつくる。資本主義によらない市場経済を作る方法としてゲセルは時間とともに減価する貨幣を提案した。

ライトが FREE MONEY FREE、FREE LAND とする場合、ゲセルの提案した自由貨幣、自由土地のことを指している。

John Maynard Keynes(ケインズ)は、彼の仕事を「深い洞察のひらめきを含んでいるが、ただほんの少しで核心に達しなかった・・・未来は Karl Marx よりも Silvio Gesell の精神からより多くを学ぶだろう。」と



書いた。

1921年に、ウィスコンシン州は John Commons によって立案された土地税を法律で定めた。(それは、Henry George と Silvio Gesell によって提案された土地改革のいくつかを達成することをめざしていたが、土地の国有化は必要としないものだった。) ライトが単一課税を拒否する場合、思っていたのはこの種の課税であったと思われる。

ライトの自伝には以下の記述がある。

ライト 自伝 第六書 ブロードエーカー・シティー 間違った教育 樋口 清訳

私たちのブロードエーカーの研究が私に見るように教えた第一のことは、われわれが一なすべきことは一今や子供に期待するのは人びととしてのわれわれ自身の個人的な自発性においてだけでなければならないということである。子供のためにわれわれは、丁重にしかし断乎として、高等教育にその竹馬から降りることを求めなければならない。まず第一に、幼少の子供の教育を分散化し自由化しなければならない(同じ努力であるが国家社会主義が取る方向とは逆である)。普通高等教育は特に生国の土地の上に何としてもともかく降ろさなくてはならない。そして高等と初等の両教育を十分に長くそこに置いて、それらの真実を一まず、健全な金と見られているこの交換手段に関わる真実を、つぎには、この良き大地のことを一学ばせなければならない。どちらをも現在までわれわれは疎かにしてきた。そしてここにわれわれは、土地についてはヘンリー・ジョージ、金についてはシルヴィオ・ゲゼルを見出す。

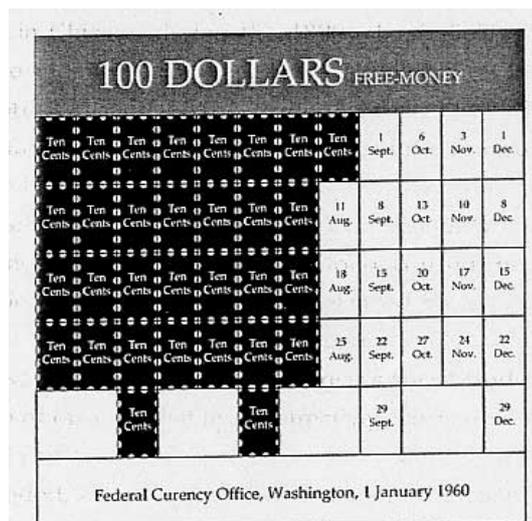
ヘンリー・ジョージが行った人間の貧困の基礎についての分析は、まだ一度も反駁されてはいない。耐えるための救いをもたらす彼による便宜的な手段は、賛同者より反論者を多く生み出した、というのは、便法が学者的な思考にとって原理より重要であるからである。いつものように、手段を目的と間違えている。鳩の巢穴的な思考である。

シルヴィオ・ゲゼルの『自然の経済秩序』は、ヘンリー・ジョージがゲゼルの成功に必要であったように、ヘンリー・ジョージの成功に必要であった。二人は、同じ盾の反面であるが調和している。

『自然の経済秩序』の前書きと「進歩と貧困」の前書きは、記録された英語の最も美しいものの二例である。両者は、万能薬よりむしろ原理を提示し、それぞれ、利得の手品師である職業的経済人たちには素朴と見える単純さをもって土地と金を扱っている。

この両方の問題、土地、および資本に取り組んだエコノミストがドイツの作家 Silvio Gesell である。彼の仕事を John Maynard Keynes(ケインズ)は、「深い洞察のひらめきを含んでいるが、ただほんの少しで核心に達しなかった… 未来は Karl Marx よりも Silvio Gesell の精神からより多くを学ぶだろう。」と書いた。

ライトが、自由-土地、自由-貨幣の用語を得たのは Gesell からである。(図 6)



後者は、時がたつにつれて価値を失う通貨であるので、保持者は交換の媒体としてなるだけ早く使うように仕向けられた。

Irving Fisher(1933年にブームと不況について書いたアメリカの傑出したエコノミスト)は、Gesellの提案が大恐慌から抜け出る最も速い方法を示していて、長い目で見れば、それが通貨の速度の最もよい調整法であるだろうと考えた。

1930年代初め、自由-貨幣はアメリカの多くの地方の状況で実現し、1933年に連邦基金が十億ドル相当の自由-貨幣を発行する議案が両院議会に提出された。ライトが彼の Broadacres の提案として認めたこの考えは、その時代と場所の現実的で政治的な経済の提案だった。

Gesellの自然経済秩序の目的は、土地と交換の媒体(流通貨幣)の公平な配分を確立することだった。誰も、自身の目的のために使われることができる以上の土地を持ったり、商品を交換する便利さの必要以上に資本を貯めることが有利であるとは思わなくなるだろう。

Gesell 経済は各個人または個人のグループの、ありのままの能力の範囲内で競走した。それは伝統的前提の受容ではなく伝統的前提の拒否、競争の撤廃ではなく足かせを外した競争に基づく一種の反マルクス主義の社会主義だとケインズは言った。

多くの点で、Gesell 経済は 1920年代と 1930年代のより進歩的な経済の提案にもう一步のところまで近づいた。

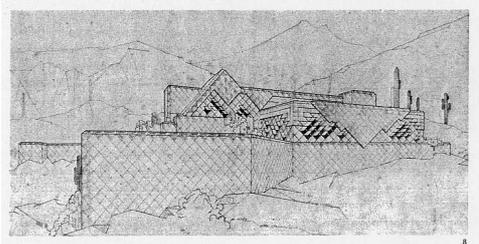
実際、Gesellの生涯の、最後の10年の間に(彼は1930年に亡くなった。)彼の文書はテキサスのサンアントニオから英語圏に分配され、彼の見解は米国で最も広い知名度を得た。

ライトのゲゼルの理論に関する知識は、彼のクライアントの1人でライトが冬を過ごし始めたフェニックス、アリゾナ(図8)の近しい隣人でもある Owen D. Young (図7)から来た可能性が十分ある。

Owen D. Young は、この時期の国際通貨会議の著名な米国の代表であり、Irving Fisherによれば、彼はそこで活発に Gesell のアイデアを推して、とりわけ金本位制を批判し、いくつかの為替を安定させる国際的な方法を強く推していた。



7



しかし、Gesell のアイデアはライトにとって意外なものではなかったと思われる。

それらは、実用主義の進歩主義者が実験とウィスコンシンのような州での経験を通して作ってきた経済の考え方を確認したものだだった。

ルイス・サリバン LOUIS SULLIVAN 1856-1924 シカゴ派の代表的な建築家。ライトの師。ダンクマー・アドラーと共同で多くの作品を残した。「形態は機能に従う」という新しい時代におけるデザインのあり方を示す言葉を残した。

ニーチェ NIETZSCHE (1844-1900) ドイツの哲学者・古典文献学者。後世に影響を与えた思想家である。随所にアフォリズムを用いた、巧みな散文的表現による哲学の試みには文学的価値も認められる。

実存主義の先駆者。

ソーロー HENRY THOREAU(1817-1862)アメリカ合衆国の作家・思想家・詩人・博物学者。『ウォールデン 森の生活』。ソーローは自らの五官すべてをフル動員し、野生生物のすべてを知りつくそうと試みた。

エマソン EMERSON(1803-1882)アメリカ合衆国の思想家、哲学者、作家、詩人、エッセイスト。マサチューセッツ州ボストンに生まれる。ピューリタニズムとドイツ理想主義の流れをくみ、超絶主義を唱えた。代表作は『自然論』『エッセイ集』『偉人論』。

「超越クラブ」を創設。内面生活の探求をし、感情や信念を共有する運動を起こした「超絶主義者」の一人。超絶主義者たちは、論理を通してではなく、感情や本能を通して真実を見極めようとした。彼らは紙をあらゆるところに見、自然それ自体が超越主義者たちの「聖書」となった。「コンコード賛歌」がよく知られている。

ライトの「The Living City」1958 巻末には、「When Democracy Build 」1946 にはなかったエマソンの随筆「Farming 農業」が引用されている。

モーゼ MOSES 紀元前 13 世紀ごろ。古代イスラエルの民族指導者。ユダヤ教・イスラム教・キリスト教およびバハイ教など多くの宗教において、もっとも重要な預言者の一人とされる。伝統的には旧約聖書のモーセ五書(トーラー)の著者であるとされてきた。

旧約聖書の『出エジプト記』によれば、モーセはエジプトのヘブライ人家族に生まれたが、新生児を殺害することを命じたファラオの命令を逃れるためにナイル川に流され、王族に拾われて育てられたという。長じてエジプト人を殺害し、砂漠に隠れていたが、神(エホバ)の命令によって奴隷状態のヘブライ人をエジプトから連れ出す使命を受けた。エジプトから民を率いて脱出したモーセは40年にわたって荒野をさまよったが、約束の土地を目前にして世を去ったという。

スパルタクス SPARTACUS 紀元前 109 年頃 - 紀元前 71 年 共和政ローマ期の剣闘士であり、「スパルタクスの反乱」と称される第三次奴隷戦争の首謀者として知られる。

ヘラクレイトス HERACLITUS 紀元前 540 年頃 - 紀元前 480 年頃)ギリシア人の哲学者、自然哲学者。「万物は流転する」、「同じ川には 2 度入れない」。「目に見える調和より、目に見えない優れた調和がある」自然の法則ロゴス logos。

ゲーテ GOETHE (1749-1832)ドイツの詩人、劇作家、小説家、哲学者、自然科学者、政治家、法律家
マッジーニ MAZZINI (1805-1872) イタリアの革命家。青年イタリア党を結成。共和主義によるイタリア統一をめざして活動した

トルストイ COUNT TOLSTOI (1828-1910)帝政ロシアの小説家。ロシアでの無政府主義の展開はトルストイの影響を大きく受けている。

ペトロス・ティス・エラザス PRINCE PETER(1908-1980) 人類学者。チベットの文化と一妻多夫制の研究者。

クロボトキン KROPOTKIN(1842-1921)ロシアの思想家で地理学者。相互扶助を基調とする無政府主

義的共産主義社会、国家を廃した小組織の連合による社会の実現を訴えた。

クロポトキンの進化論。青年期の一連のシベリア調査で、動物の助け合いや未開の人々の助け合いを観察することによって、クロポトキンは当時の進化論者の中で主流であった個体間の生存競争の重要性を否定し、むしろ生物が集団内でも相互に助け合いながら、環境に対して生存の闘争を繰り返し広げていると認識した。こうした彼の生物学的な認識と政治的な認識が統合され、イギリスを中心に学会の主流であったトマス・ハックスレーなどの「適者生存」的な進化論との違いが生みだされることになったといえる。

このクロポトキン流の相互扶助をベースとした進化論的自然認識が社会に適用されることで、自由な共同体の連合を基礎として都市と農村が有機的に統一された自治的協同社会を実現しようとする「無政府主義的共産主義」が誕生した。

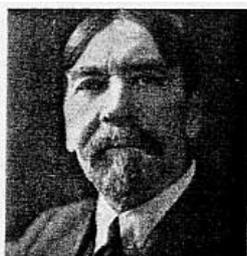
プルードン、バクーニンと並んで、アナキズムの発展に尽くした人物であり、長年の考証的学術研究から、当時一世を風靡した社会進化論やマルクス主義を批判し、相互扶助を基調とする無政府共産主義を唱えた。その思想は、社会運動のみならず文学にも影響を与えた。主著に『パンの征服』(1892年)、『田園・工場・仕事場』(1898年)、『相互扶助論』(1902年)などがある。

ウィリアム・ブレイク WILLIAM BLAKE(1757-1827 イギリスの画家、詩人、銅版画職人。詩においても、絵画においても、自らの内面の情熱を形に表すといった作風で、そのすべてが宗教的なヴィジョンに裏打ちされている。 Exuberance is beauty. (大自然は美で満ち足りている。)



TIGER

ソーンスタイン・ベブレン THORSTEIN VEBLÉN(1857-1929)



4

ライトの大企業と銀行家に対する猛烈な攻撃と、債権制度が過剰生産に、そして当然失業または軍国主義、帝国主義のどちらかに導くという確信は、Beard (Charles A. Beard 経済史学者) のアメリカの歴史の分析において信憑性を与えられ、それらは実は Thorstein Veblen の仕事の中にある。

Veblen(図 4)とライトはともにウィスコンシンの農家に生まれて、両方とも 1890 年代の間にシカゴを経験した。

ライトの講義が建築の形を社会的な役割になぞらえたのと同じ方法で、Veblen の革命的な有閑階級の理論(1899)は社会の経済的な役割について述べた。

資本は消費者が損失を受けるところまで産業を支配するというライトの大まかな推定は Veblen によって支持された。

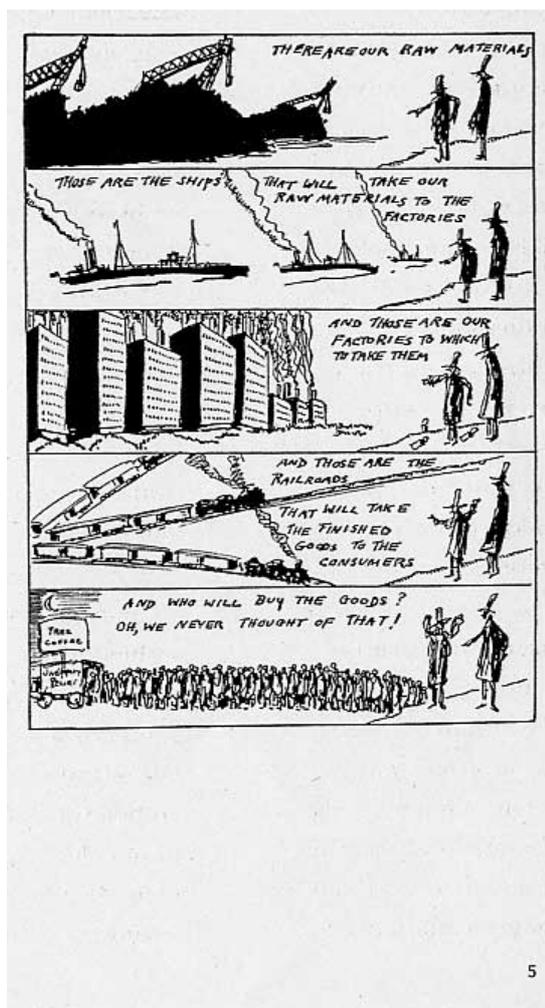
両者は、もし高利貸しと物価の急上昇がなければ、現代の産業の資源は人を苦役から解放できると信じた。両者は、土の近くに生きる共同体は、不在所有権と金融によってコントロールされた最も高度な技術の国家を超えることができると主張した。

両者は不動産の投機を軽べつした。

両者は販売技術によってもたらされる著しい浪費を示した。(図 5)

しかし、批評家は Veblen の手厳しい意見をまじめに取るのに対して、ライトはこれらの問題において単に気違いじみていると考えられている。

もし Beard と Veblen が、多くの急進的、進歩的な知識人が不況、失業、生産が増大しても賃金が減少することの原因であると信じているものと、戦争と独占的資本主義の關係に要約したならば、彼らは問題に答えを与えたことになっていない。



エドワード・ベラミー EDWARD BELLAMY (1850-1898)

アメリカの著作家、社会主義者である。社会主義的ユートピアが実現された西暦 2000 年を舞台にしたユートピア小説、『顧みれば』"Looking backward, 2000-1887"

1887 年の上流階級男性が催眠術で眠りに落ち、社会主義的ユートピアが実現された 2000 年の社会を目の当たりにする。本作は数多くの知識人に影響を与え、当時のマルクス主義者が書いた書物の題名には"Looking Backward"の句が氾濫することになった。フロムいわく、「これは今までに刊行された本のうち、政治活動に本質的な影響を与えた数少ないものの一冊である」。「ベラミー・クラブ」を名乗る団体がアメリカの各地に雨後の筍のごとく設立され、『顧みれば』中のアイデアを議論、もしくは宣伝した。この政治的な動きはナショナリズムとして知られるようになった。ベラミーの小説はいくつかのユートピア的コミュニティにも影響与えた。

出典 Lionel March Broadacre City: Intellectual Sources Frank Lloyd Wright the Phoenix Papers Volume I Broadacre City 他